

## 68 発達障害児等デイサービス事業「なかま」の取り組み

秩父学園 地域支援課 地域療育支援室 大門亜希子 佐山智洋 安永有紀  
山本文世 山崎由佳 新家康洋 星美弥子

### 【はじめに】

放課後等デイサービスの制度が施行されて以来、事業所が大幅に増えてきた一方、支援の質に差が生じているとの指摘がされている。平成27年にガイドラインが策定されたが、サービスの質の向上を図るためには具体的な支援方法を知り実践に生かす必要がある。本事業では、ガイドラインに基本活動として掲げられている「子どもが意欲的に関わられるような遊び」についての具体的な活動プログラムモデルを提供することを目的とし、小集団活動の取り組みを行った。今年度これまでの実践プログラムを情報発信するに至ったので、その経過を報告する。

### 【方法】

対象児：小学1～6年生までの自閉スペクトラム症等の発達が気になる児童10名。活動内容：ゲーム・製作・調理・畑・買い物など。発達ニーズの把握：保護者が記入した情報シートやニーズ表、行動観察の情報を「課題の整理表」を使用して整理した。実施形態：一斉活動と小集団活動を行い、実施形態を検討した。小集団活動は、発達ニーズの情報を基に2～3のグループに編成した。支援内容：個々の発達ニーズに応じて活動プログラムを組み立て、環境設定や視覚支援等の工夫をした。評価：活動後に改善点を検討した。

### 【結果】

1. 発達ニーズの把握 取り組むべき課題として多く挙げられた発達ニーズは、「集団活動で友達との遊びを楽しむ」「自分の気持ちを伝える」等の社会性やコミュニケーション領域であった。
2. 実施形態の検討 なかま開始当初、一斉活動による形態で実施したが、障害程度や特性が様々であるため、活動設定や進行が難しかった。内容が難しい・理解できない等の理由から、活動に参加できない子どもがいた。そのため発達ニーズの情報を基に小集団に分け、発達ニーズや興味関心を取り入れて活動内容を調整すると、意欲的に参加することができた。共通する支援ニーズがあるため、個別支援計画の目標に向けた活動プログラムを取り組むことができた。
3. 個々に応じた支援の工夫 活動内容は小集団ごとに難易度を調整し、興味や理解に合わせて写真やipadの手順書を提示すると、自立度が上がり意欲的に取り組むことができた。人との関わり方について、SST等の支援を行うことで、友達との適切なやりとりが増えた。

### 【考察】

放課後等デイサービスを利用する子どもの障害程度や特性、年齢は様々であり、どの子どもも意欲的に関わられる活動を支援する必要がある。そのためには、個々の「障害特性」「発達段階」「興味関心」を中心に考えて活動内容を組み立てることが重要である。本事業では、発達ニーズ別にグループを編成して、活動内容や難易度を調整し、支援を工夫することで、子どもの発達ニーズに合った活動プログラムを提供することができたと思われる。現在、学園のホームページで実践プログラムの情報発信を開始している。子どもが意欲的に関わられるために大切な視点が明らかになったので、今後は事例を増やししながら、具体的な支援策について発信していく。